

有害鳥獣の駆除に力を入れてください。防護柵なしでは農作物がつかれません。
設楽孝蔵さん（西部）



町の顔である中心市街地の空き店舗解消のため、事業費を増額して市街地を活性化するように図ってほしい。
福島正幸さん（市街地）



賛成・反対 議員の 討論

質疑が終わると「討論」が行われます。討論は、議案に対して議員が自己の賛否の意見を表明し、その理由を述べることで他の議員を自己の意見に賛同させることが目的です。



私はこう考える 一般会計 反対討論

今こそ町独自の公的支援を行うべき
田母神節子 議員
町の財政が健全であることは喜ばしいことですが、財政調整基金の12億円をもっと住民の生活向上のために活用すべきです。

私はこう考える 一般会計 賛成討論

財源確保の努力と子育て支援を評価
佐藤理美 議員
歳入は総額120億円を超え、財源確保に努力がうかがえます。今後も町民福祉の向上に積極的な取り組みを要望します。

私はこう考える 一般会計 賛成討論

補助金を有効活用 町の活性化を評価
稲山良文 議員
「寄居創生元年」として、財政健全化に配慮して事業運営されました。事業を推進し、町の活性化を図ったことは評価できます。

猟期外の有害鳥獣駆除方法は 県ホームページ「クマ・イノシシ」に注意

石井康二議員
猟期を除く期間の有害鳥獣駆除は、どんな方法で駆除を行うのですか。また、鳥類については、どんな方法で捕獲するのですか。



答弁 有害鳥獣駆除の方法としては、主に罠などを使用します。地域区住民の方々には、事故等防止するために、事前の連絡・周知をしてから実施しています。また、鳥類につきましても、危険のないよう十分に注意して、銃を使用しています。



私(石井議員)はこう評価した
銃の使用、特にカワウ退治について、町長の一考をお願いしたい。



住宅改修対策の効果拡大を

田母神節子 議員
中小業者の仕事確保と住民の負担軽減として当初400万円の予算で始まり、5月には予定額になるほどで、増額されて600万円になり48件の利用者で596万9000円でした。いつ予定額になったのか。また、経済効果と今後増額をする考えはないか伺います。

答弁 工事費の1割の補助額で20万円を限度としています。12月に予定額となりました（年度内に報告書を出す）。10倍以上の経済効果です。今のところ増額の考えはありません。



私(田母神議員)はこう評価した
中小業者の仕事確保と住民負担軽減のため、増額は必要ではないか。



発行総額は2億6400万円

里山・平地林再生事業の成果は

中嶋文雄 議員
里山は今、どこも手入れがされず、竹・篠や下草が繁茂し荒れています。また、イノシシやシカ等の有害鳥獣のすみかとなっています。この事業は、里山の竹・篠等を刈り払い、里山・平地林を再生するための事業です。成果について伺います。

答弁 用土・寄居地内の町有地及び民有地の約12ヘクタールで実施しました。有害鳥獣と人との緩衝帯として役立ち、一度事業を行った山を再び篠山としないよう、今後も管理の指導に取り組んでいきます。



私(中嶋議員)はこう評価した
一度、下草を刈り再生した里山も、その後の具体的な管理方法に疑問。再度荒廃の心配あり。



クラシックカーパレード補助金

津久井康雄 議員
平成26年度決算額は177万円。27年度決算額は80万円で約100万円の減額です。以前は、ホンダ車に関係のないレーシングカーの展示等があったようですが、27年度のクラシックカーパレードがどのように実施されたのか伺います。

答弁 以前は、役場駐車場で開催し、レーシングカーの展示など付属イベントも行っていましたが、27年度は、他のイベントは取りやめて、市街地中央通りで開催しました。ホンダ寄居工場までホンダ車のクラシックカーパレードを挙行し、好評でした。



私(津久井議員)はこう評価した
予算削減でも好評だったクラシックカーパレードを評価する。



行政に求められる「最小の経費で最大の効果」のため、今後とも費用対効果の測定等不断の見直しを行い、的確に対応していく必要があります。現在策定中の公共施設等総合管理計画でも、公共施設の維持管理に十分な検討が望まれます。限られた行財政資源の活用には、優先度に応じた「選択と集中」が不可欠であり、各事業について目的の再認識と評価による改善に全庁で取り組みられるよう要望します。

寄居町監査委員
花輪敏男
岡本安明

平成27年度決算は、決算書や関係帳簿などを照合し、審査しました。計数・内容とも誤りなく、特に指摘する事項は認められません。また、財政状況は、健全な状況といえます。

一般会計では、町税は前年度に続き50億円を超え、国庫支出金・県支出金も23億円以上と財源確保の努力が見えます。人口減少や少子高齢化の中、地域経済の活性化、施設やインフラの老朽化などを喫緊の課題と捉え、「寄居創生元年」に位置づけられた27年度も各種の事業施策を展開し、概ね所期の成果を達成したものと認められます。



町財政は健全です